エイチ・ツー・オー リテイリング

統合レポート2023

H2O RETAILING Integrated Report 2023





Contents

Chapter 1	巻頭特集
Chapter 1	包頭付来

3 ~with LOCAL~

Chapter 2 統合レポート

- 11 ~これまでの歩みと現在~(イントロダクション)
- 12 基本理念・グループビジョン
- 13 私たちの行動
- 14 会社概要
- 15 会社沿革
- 16 事業概要
- 17 私たちの事業基盤
- 19 私たちの価値創造の変遷
- 20 ~ これからのH2Oリテイリング~(価値創造ストーリー・全社戦略)
- 21 トップインタビュー
- 23 価値創造プロセス
- 24 サステナビリティ経営
- 26 長期事業構想2030
- 28 中期経営計画(2021~2023年度)
- 32 ~H2Oリテイリングの価値創造を支える基盤~(機能戦略・ガバナンス)
- 33 サステナビリティ戦略
- 39 環境
- 44 社会
- 48 外部有識者メッセージ
- 49 IT・デジタル戦略
- 53 人的資本戦略
- 57 コーポレートガバナンス
- 63 コンプライアンス・リスクマネジメント
- 65 ~H2Oリテイリングの価値創造のための各事業戦略~
- 66 百貨店事業
- 68 食品事業
- 70 商業施設事業

Chapter 3 データ集

- 73 **~データ~**
- 78 ~統合レポート2023 編集方針~



00

統合レポート Chapter

> これからの時代を、心豊かに暮らすためには、どうしたらいいのだろう? サステナブルな「楽しい」「うれしい」「おいしい」に向けて、 地域の方々とともにチャレンジを続けています。

03

「木でつなぐ」とはどういうことか? 私たちと森の循環、2023年の現在地。

大阪府との包括連携協定(2021年締結)に基づいて進められている「大阪 森の循環促進プロジェク ト」。サプライチェーン全体を巻き込み、需要や関係人口の創出まで含めた、長期的な視野でのプロジ ェクトです。2023年は、グリーンエイジ(阪急うめだ本店8階)のオープンや子ども向けイベントの開 催など、よりお客さまに「体感」していただける場での大阪府産の間伐材の利用促進を行いました。 東京WOODコレクションの大阪府ブースに参加した際につけた「木でつなぐ・つながる未来」のキャ ッチフレーズ。小売業だからこそできることを考え、実践する中で、その意味を考え続けています。

「大阪 森の循環促進プロジェクト」の流れ

大阪府産間伐材を利用して改装を行った売場「グリーンエイジ」 (阪急うめだ本店)オープン 隣接する紳士・ゴルフ売場の改修と合わせて、 大阪府CO₂森林吸収量·木材固定量認証制度第1号認証となる

高槻阪急スクエア1階 たかつきけやきパークオープン 大阪府産の木材を使用 2023.10

2023.1

東京WOODコレクション2023 大阪府ブースへ出展

2023.3

大阪・関西万博CDCプログラムに 「想うベンチーいのちの循環ー」プロジェクトが採択される

2023.4

2023.8

HANKYUこどもカレッジ(阪急うめだ本店)にて 大阪府産間伐材を用いたスツールづくりを実施(協力:丸紅木材(株))











①②HANKYUこどもカレッジ(阪急うめだ本店)にて「豊かな森を守ろう~大 阪府産の間伐材でじぶんスツールづくり」を実施。間伐材に関するレクチャー のあとはスツールづくり。9階祝祭広場にひのきのいい香りが広がりました。 ③ ④ 自然との共生をテーマにした売場「グリーンエイジ」。売場同士をつなぐ 天井の「やぐら」やモジュール型のスツールに大阪府産の間伐材を利用してい ます。「これまで内装材を利用直前に発注していたのが、製材所の方に伐採に 適した時期や乾燥方法による香りの違いについて教えてもらったことで調達ス ケジュールから見直しました」(阪急阪神百貨店CM室 大鍜治)。大阪府産材利 用によるCO2の木材固定効果が認められ、大阪府の認証制度第1号の認証も

⑤東京WOODコレクション2023に大阪府ブースの一員として参加。「国産材 に対する興味が高まっていることを肌で感じました。木材の質の良さや森林と 都市部が近い大阪ならではの立地も活かして、地域産材の利用を促進したい と思っています」(ともに参加した松葉善製材所の松葉さん)。

⑥2025年の大阪・関西万博の共創プログラムとして「想うベンチーいのちの 循環ー」プロジェクトが採択されました。万博で利用するベンチ製作とメディア 発信を地域の方々と行っていきます。

「日常」の場から、大阪の森へ思いを馳せる 一大阪にとっての森とはー

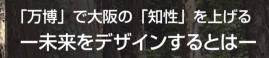


大阪府財務部長。公民連携について統括 する。2022年度まで3年間、環境政策監と して大阪府の環境行政のトップを担った。

大阪府の森林面積は府域面積の3分の1。大阪は湾岸部を埋め 立てて発展してきたイメージが強いので、府民の方でも森林がそん なに占めていると思っている方は少ないと思います。でも、ちょうど 府境を山に囲まれて、薪などの生産材を得る場としても、信仰、レジ ャーの場としても身近に親しまれてきた歴史があるし、林業地とし ても300年以上の伝統がある。いずもく(和泉市内産木材)やおお さか河内材といったブランド力のある木を産出できるのは、もうち ょっと知られてもいいんじゃないかと思っています。

森林資源や木材利用という言葉は、ここ10年ほどの間で、災害 防止、水源涵養、脱炭素などの森林の持つ多面的な機能を高めて いくといった意味を含むようになったと感じています。H2Oリテイリ ングとの森の循環促進プロジェクトはもともと大阪府産の間伐材を 用いた「木のストロー」に興味を持ってくださったというご縁です が、「木材利用」の観点から小売業として循環を作り出そうというの は包括連携協定を締結している企業の中でも他にない取り組みで す。百貨店やショッピングセンターは非日常の手の出せないところ にあるものではなく、身近な日常にあるもの。そういう場所で、大阪 府産の木材を利用した素敵な内装、什器や商品があって、その良さ や背景を感じることができる。大阪の森が「近くにあるもの」という 感覚を伝えていただけるのは、とても大きなことですし、しかも、実 際に森の現場に行かれて、そこで働く方とやりとりしながら、店舗づ くりや商品開発という本業に取り込んだ形で継続的に取り組みを されているという姿勢は私たちも学ばせていただいています。

2025年には大阪・関西万博もありますし、現在も海外から多く の方が来られています。そんな中で、森林国として森から与えられる ものの魅力をもっと伝えられるんじゃないか。店舗や周辺地域か ら、そんな動きが広がっていけばと思っています。





大阪・関西万博にて「Co-Design Challenge (CDC)」アドバイザーを務める。クリエイティブ ユニットgraf代表。

CDC(※)に採択された「想うベンチーいのちの循環ー」プロジェ クトは、府民を巻き込んだ「大阪府内産材によるベンチ製作」と「メ ディア制作」が一体となっている点が独創的でした。他のプロジェク トとの共創も視野に入れることができるプロジェクトだと感じてい

大阪・関西万博は、大阪府や関西圏の「知性」を上げる場だと思っ ています。インプットされ頭で理解した「知識」は身体的な「体験」を 通して言語化することによって「知性」となり、自分自身で考え行動 していく主体性が高まるのだと考えています。

プロジェクトに期待しているのは、「森を想う」「いのちを想う」か ら一歩進めて、「森に行く」ところまで促すこと。ベンチという「モノ」 をとおして、その背景にある「森の循環」や「いのち」を体感してい ただけるようなものになればと思っています。

そのためには、H2Oリテイリングと「大阪の森をどうしていきた いか」というビジョンを議論していきたいと思っています。現状の課 題解決ではなく、未来に対するプロトタイピングとして、例えば、森と 都市部と海がどう循環していくかをプロジェクトを通して考えてい きたい。そして、「ベンチ」というモノが入口になるからこそ、ベンチ をどうデザインするかがかなり重要な要素だと感じています。なぜ その木を使うのか、多様性や耐久性にどう応えるか、そうしたひと つひとつをメディアで記事化していきながら、「モノ」のその先を知 りたいと思えるようなものにしていく。プロジェクトに参加される 方、万博に訪れた方、その後地域でベンチを使う方の体験の質を上 げるプロジェクトになればと考えています。

(※) CDC (Co-Design Challenge) とは

大阪・関西万博にて新しい共創事業として実施される、運営参加特別プログラム。79件の応 募から12件が選定されています。

住民の皆さんが公園の魅力を考え、やってみたいことを実現。

地域住民の皆さんと「公園にはどんな使い方があるのか」などをともに考える「講座編(全6回)」からはじまり、さらに公園づくりに関心をもつ住民約20名とともに「企画・実践編(全5回)」で公園での活動を企画しました。2023年4

月にはそのお披露目イベントとして住民の皆さんの4つの 企画を実施。公園にはたくさんの地域の方々がイベントを 楽しむ姿が見られました。







吉田さん

結婚してから17年間豊中市に住んでいます。娘が参加したがっていたこのプログラム。娘の代わりに参加しているうちに自分が楽しくなっちゃって、自分でも何かやろうと本格的に関わるようになりました。プログラムに参加して思ったことは、知らなかったことがたくさんあるなということ。豊中の豊かな自然の中で子育てしてこられたのも、いろいろな方が竹林や緑の管理をしてくれてたからだと知りました。今は娘と一緒に竹の循環利用を考えるプロジェクトを立ち上げました。竹粉を肥料にして公園の花壇に使うなど、公園や地域での竹の循環を考えることが楽しみ。夢は広がるばかりです。



原田さん

仕事を退職した後はなにか地元に貢献できることがやりたいと思っていたところ、こちらの活動を知って参加しました。市民にとって、行政って壁を感じる一方、市民も任せっきりでもあるなと思っていました。でもどうしていいのかわからない人が多いと思うんです。こうやって公園の楽しみ方を考えたりすることで、街のことを考えることにつながっていくんじゃないかなと感じています。一人ではできないからこそ、こういう活動はありがたいと思います。今後とも、この公園ならではの企画を考えてみたいです。これからさらに何ができるか、本当に楽しみなんです。

20年後も継続するために

パークコミュニケーターが常駐して地域住民のみなさんをサポート 久保容子経営企画室オープンイノペーション推進部公園事業担当

人と人を繋ぐお手伝い役として地域の声に寄り添うのが私たちパークコミュニケーターの役割です。事業開始時に「これまでの自然豊かな公園が変わってしまうのではないか」と心配されていた地域の方がいらっしゃったのですが、ワークショップなどで対話の場を設けることで、今では公園づくりに積極的に取り組んでくださるようになったことも。今後も私たちも地域の一員として、地域の皆さんと一緒に公園づくりを進めていきたいと思っています。



「花の苗木を提供してくれる団体はないかな」という相談に「公園の近くで活動している団体を探してみましょうか」と応える久保。LABOを訪れる住民の方々と気軽におしゃべりしなからお困りごとをサポートしています。

全員の想いがぶれなかったからこそ、 地域に受け入れられるプロジェクトに



日高厚氏 豊中市環境部 公園みどり推進課

住民を主体とした公園づくりを続ける以降、2042年 3月 協定期間満了ま

ワークショップなどを通じて住民の方々の「公園を良くしたい」という思いを感じた分、それに応えたいと、フェンスの高さひとつにしてもパートナーズのみなさんと何度も話し合いました。お互い時間のかかる作業でしたが、「地域を良くしたい」というベクトルがブレることはなかったからこれだけ地域の皆さんに受け入れられたと思っています。「公園あってもいいよね」から「公園にちょっと行ってみようかな」と期待感を持たれる方は確実に増えました。これまで愛されてきた原風景を大切に残してくれたのも大きいのではないでしょうか。これからもどうすればさらに良くなるのか、皆さんと一緒に考え続けていきたいと思っています。

PROCESS

PROC	ESS									
2021.7	2021.11 O	2022.1	2022.4	2022.7	2022.10 O	2022.10 O	2023.3	2023.3 O	2023.4 O	>
にかかる活性化事業」を公募豊中市が「千里中央公園再整備	トナーズ」を選定トナーズ」を選定	を締結 事業の実施に向けた基本協定」 事業の実施に向けた基本協定」 テイリング株式会社と「千里中 テイリングは式会社と「千里中 テイリングはでいる活性化 関中市がエイチ・ツー・オー リ	にヒアリング実施デザインの専門家と地域団体活性化事業開始。コミュニティ	園」講座編(全6回)「みんなでつくる千里中央公	を作成するプログラムを実施けた多様な色でカラーチャート民が美術家と公園を歩き見つ民が美術家と公園を歩き見つ	園」企画・実践編(全5回)「みんなでつくる千里中央公	ョップを実施トで見つけた色で塗るワークシトで見つけた色で塗るワークシーを見います。	SCENES」オープン 新拠点施設「1000RE	ベント開催園」企画・実践編のお披露目イ園」企画・実践編のお披露目イーののでつくる千里中央公	

千里中央公園パートナーズと協力企業

千里中央公園パートナ	ーズ	
▶エイチ・ツー・オー リラ	・イリング (株)・・・・・・	・・・・ 事業全体コーディネート 活性化事業、駐車場管理、運営
▶(株)ローソン ・・・・・・		・・・・ ミニショップ運営
▶西日本電信電話(株)(NTT西日本関西支店)	····ICT整備
協力企業		
▶(株)アーバンリサーチ	公	園グッズ企画商品化、菜園プロデュー
▶(株)オペレーションフ	ァクトリー・・・・・ カ	フェ運営
▶(株)乃村工藝社 · · · ·	デ	ザイン・設計・施工
▶フクシマガリレイ(株)	+	ッチン設置、食スタートアップ支援
▶(株) MuFF · · · · · · · ·	・・・・・・・・デ	ザイン・設計
▶(株) NTT西日本アセッ	ト・プランニング・・ 建	物リノベーション
▶スタイレム瀧定大阪(オ	朱) ・・・・・・・ポ	リエステル繊維リサイクル培地
D本出版販売(株)	···· *	に関する企画、プロデュース



2023年夏、能勢電鉄絹延橋駅(兵庫県川西市)の ホンで駅員さんに「水やりに来ました」と伝えて構内 ホーム脇の一画に、「フードロスゼロチャレンジデイ ズ」(※)でできあがった堆肥を使って野菜を育てる畑 が誕生しました。昨年度の当プロジェクトの様子を見 ていた能勢電鉄さまが「空き地があるのでよかった ら使いませんか?」とプロジェクト事務局に声をかける命力への感嘆でも盛り上がりました。 てくださり、始まった試みです。

当番は週単位での挙手制、作業時は改札のインター

つながり」のチャ

へ。食べ頃に育った野菜を「水やりのついでに自由 ✔に収穫してください」方式にするなど、緩やかな連携 によって幕を開けた野菜づくり。「堆肥に混ざってい たかぼちゃの種から芽が出て花が咲いてる!」と、生

写真は、川西阪急と企画・実施した夏休みイベント 6月初旬、地域の皆さんと一緒に伝統野菜のとう。この一コマ。畑を訪れた子どもたちからは「とうもろこ もろこし、枝豆、ミニトマトの種を植えました。水やりくしがもちもちしていておいしかった」「枝豆の収穫は くはじめてして楽しかった」といった声があがりました

(※)

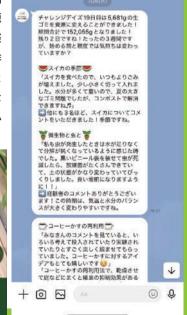
「フードロスゼロチャレンジデイズ」って?

参加者が各々の家庭から排出された生ごみを家庭用コ ンポストで堆肥化するチャレンジプログラム。3週間の期 間中は毎日事務局が集計して「○グラムの生ゴミが資源 に変わりました!」とLINEグループやSNSで発信。「実際 に取り組んだことで、日々の生活の中で出てくるゴミの排 出に対して、意識が変わってきました」(第1回に参加した 川西市の越田市長)。「匂いは心配していたほどではな く、日々のアクシデントも参加者同士でシェアできて安心 しました」(参加者)

(写真左)2023年10月に 第4回チャレンジデイズ を開催。

(写真右)チャレンジデイ ズ各回のグループLINE では、参加者同士の気づ きやコツのシェアも日々 行き交っています。





〈99+ 第3回…ジデイズ ○ ■ 三

2023年3月、川西市とH2Oリテイリングは包括連携協定を締結しました。



越田謙治郎氏

多様化する行政課題に対し、行政だけではスピード感をもった対応が難しいことも あることから、民間企業と市民と行政が連携して社会課題の解決に取り組む「新し い公」がつくりだされることを期待して同協定を締結しました。

さっそく昨年度から同協定に基づき、「市民の交流やまちの賑わい創出」、「ごみの 排出削減」を目標に、取り組みを展開し、今年度は「グリーンアップサイクル®プロジ ェクト」が本市で動き出しています。本市としましては、今後も連携しながら市民を巻 き込んだ取り組みの輪が大きく広がっていくことを大いに期待しているところです。

持て余している食材を持ち寄ってみたら……

家で食べきれない食材などを持ち寄って料理し、でき た食事を囲むサルベージ・パーティーをとおして「ご近 所のステキな知り合い」に出会うイベント「グッド・ネイ バー・ミーティング」。2023年9月の妙見の森での同イ ベント参加者からは「近所で自分と同じように社会問 題に興味がある人に会えてよかった」「子どもやPTA を通じる以外に、地域の人と繋がることはなかなかな いので貴重な機会」といった感想が寄せられました。



自分にできるECOアクションを考えてみる

当社グループ各社の担当者が講師となり、オンラインスクールなどを開催。2023年8月 の対面アカデミーでは、参加した小学生からこのような声が。

「マイクロプラスチックが原因で海の魚が死んでいることを ックの回収やリサイクルに取り組んでいきたい」

水11杯分の水を使うと聞いて驚いた。学んだエコについて の知識をお友達にも教えてあげたい」



-ンアップサイクル®"で何しよう?

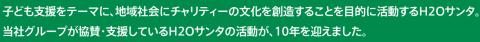


不要になった衣料品を新たな素材に変化させて活用する「グリー

み重ねていきましょう」と話します。川西市 が始動。どのようなプロダクトに生まれ変 ています。

チャリティーネットワーク。 誰もが誰かのサンタになれる。

当社グループが協賛・支援しているH2Oサンタの活動が、10年を迎えました。









⑥⑦⑧NPOフェスティバルでは、お客さまから「世の中にこのようなことをして "しんどい"子どもたちを支援している人たちがいることを初めて知りました」 の声。 ⑨阪急うめだ本店人気ブランドのご協力でファッションドールの衣装を 制作。オークション形式で販売し、寄付するイベントも。 ⑩長期入院中の子ども たちに笑顔のメッセージを届ける「レッド・ノーズ・デイ」の様子。









イドは、阪急うめだ本店・神戸阪急・博多阪急・阪神梅田本店・高槻阪急ス クエア・西宮阪急・イズミヤ花園店・阪急オアシスキセラ川西店に設置。毎 週定額を募金箱に入れてくださる方も。 ②関西スーパー・イズミヤ・阪急 オアシスにもH2Oサンタの冊子立て付き募金箱を設置しています。③阪 急うめだ本店で毎週土曜日に行っているNPOのPRと募金集めのトーク イベント。支援されるお子さまが体験談を話すことも。 ④ボランティアと 社会貢献団体を仲介する活動もしています。 ⑤社会貢献団体を通して、 ・届けるためにこれまでにアジア地域に4基の井戸を設置する

「誰もが誰かのサンタになれる。」が合言葉 のH2Oサンタ。2012年の立ち上げ時に社内 公募で事務局入りし、H2Oサンタとともに10 年間を歩んできた事務局長の外間(そとま)は こう話します。

「イベント来場者さんがしばしばおっしゃる のは『世の中のために何かしたいと思ってい た』という言葉。出展団体の方から『阪急うめだ 本店で紹介してもらったので信用を得やすくな り、活動がしやすくなりました』の声もよくいた だきます。"つなぐ"ことで地域社会にチャリテ ィーの輪を広げようと活動を重ねてきました。

先日、一般の方からFAXで数十万円単位の 寄付の申し込みを受けました。驚いてお礼 σ 電話をすると、『孫世代のために何かしたいと 思いつつどこに寄付をしたらいいか悩んでい たら、娘が阪急百貨店で見かけたからとH2O

サンタのパンフレットを持ってきてくれたので』 とのこと。10年間種をまいてきたことが、各方 面でようやく芽吹き始めた実感があります。

今後は、当社グループの店舗と地域の団体 を "つなぐ" ことにもさらに力を入れていきた いですね。現在、グループ内の約20店舗で、余 ったパンを地域の子ども食堂などに提供する 活動をしています。当社グループでより活動の 輪が広がるように、連携を深めていきたいと思



ズミヤ、阪急オアシスの一部 店舗等に設置しています。



百貨店などの情報発信性を生かし、社会貢献に関心 のある方々と助けを必要とする団体とをつなぐ活動 を2012年よりスタート。2015年に法人化しました。 地域社会にチャリティーの文化を創造することを目 的に、子ども支援をテーマとした「社会貢献団体と連 携した啓発・募金活動」「寄付のためのイベント」「ボ ランティアの仲介」「調査・発表」を行っています。

DATA(2015年~2022年度) ご紹介団体数104団体 イベント等参加者 約24万人 寄付額 約1億5,300万円

法人: 245法人 個人: 43人 (2023年3月31日現在)

詳しい活動内容はこちら



<替助会員数>







NPOフェスティバル

世の中にまだ広く知られていない、子ども支援に取り組む社 会貢献団体の有意義な活動をご紹介し、寄付を募るイベン 、。楽しく学べるワークショッププログラムも充実しています。 阪急うめだ本店9階祝祭広場でこれまでに17回開催し、延べ 251の社会貢献をご紹介してきました。2023年8月のNPO フェスティバルには、長期療養中の子どもたちなどに"星空" を届ける一般社団法人星つむぎの村さまによる直径7mの ドーム型プラネタリウムも登場。

「NPOフェスティバルは"再会の場"でもあるんです」

おもに病院で活動している私たちクリニクラウン(クリニック[病院]と クフリン[連化師]を旨わせた逗語/にとって、NPUノエスティハル (H2Oサンタが出展している)「ロハスフェスタ」は、たくさんの人にク リニクラウンのことを知っていだける貴重な機会です。

それと同時に、じつはNPOフェスティバルは "再会の場" でもあるんで す。自宅療養中の子どもが酸素ボンベを携えて「クリニクラウンが大好 きだから」と会いに来てくれたり、大阪の病院のスタッフさんたちが 「梅田は来やすいから」と立ち寄ってくださることも珍しくありません。



認定NPO法人 日本クリニクラウン協会さま

「参加団体どうしで横のつながりもできました」



西淀川子どもセンターさま

私たちは大阪市西淀川区で、子ども食堂などローカルに活動し ています。NPOフェスティバルで「こんな活動をされているなんて 知らなかった」と近隣の方に声をかけていただくことも、しばしば あります。同じ地域で暮らしたり仕事をしていても普段接点を持 てない方々から、応援の声をいただくのは嬉しいですね。 参加団体どうしで横のつながりもできました。ブースが隣になっ たご縁で、プール・ボランティアさんには、数年前から夏休みに子

どもたちをプールあそびに招待していただいています。

Chapter 1